

5. 招待講演・シンポジウム

5. 1. 国内での招待講演およびシンポジウム

(公的なもののみ, 民間は除く)

1. 信迫悟志

(シンポジウム 1) 認知神経科学的手法による DCD 研究
第 8 回日本 DCD 学会学術集会. 2025 年 5 月@弘前
自身のこれまでの DCD 研究の成果について紹介した.

2. 森岡 周

(特別講演) 笑顔は場に宿る - 間身体性から見つめ直すリハビリテーションの本質 -
第 35 回長崎県理学療法学術大会. 2025 年 6 月@長崎
コミュニケーションにおける笑顔の生成に関して、神経科学、認知科学、哲学などの見解を用いて解説し、リハビリテーション医療における重要性について解説した.

3. 尾川達也

(教育講演) 価値観を考慮した理学療法-共有意思決定 (shared decision making) の実践-
第 54 回長野県理学療法学術大会. 2025 年 6 月@長野
患者の価値観の統合をどのように臨床現場で実践していくのかについて、意思決定と目標設定の 2 つの視点から話題提供をした.

4. 西 祐樹

(研修会) 臨床に活かせる痛みやしびれに対する物理療法
(公社) 長崎県理学療法士協会 令和 7 年度第 1 回学術研修会. 2025 年 7 月@WEB
痛みやしびれ感の病態や評価を解説するとともに、病態や評価に応じたリハビリテーションについて話題提供した.

5. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病の標準的理学療法プログラム
第 19 回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS. 2025 年 7 月@東京
パーキンソン病の標準的理学療法プログラムに関するポジションペーパーおよび主要な問題点に対するプログラムのまとめ方について、バランス障害を例示しながら発表した.

6. 大住倫弘
（シンポジウム）幻肢痛の多様性に応じて最適化するリハビリテーション
第 19 回 Motor Control 研究会. 2025 年 8 月@厚木
幻肢痛の多様性にあわせたリハビリテーション手続きについて話題提供した.
7. 大住倫弘
（オーガナイズドセッション）幻肢の主観的経験に対応する脳波ネットワークの探索
日本認知科学会第 42 回大会. 2025 年 9 月@東京
幻肢の動かしにくさ, 痛みなどの主観的経験に対応する脳波ネットワークについて自身の研究成果に基づいて話題提供した.
8. 三枝信吾
（オーガナイズドセッション）脳卒中リハビリテーション過程におけるナラティブ・エンボディメント
日本認知科学会第 42 回大会. 2025 年 9 月@東京
脳卒中者の歩行および上肢に関する物語性から身体性への方向であるナラティブエンボディメントについての研究成果を話題提供した.
9. 森岡 周
（講演）ヒューマン・テクノロジー・ナラティブの交差点
～神経理学療法における継承と革新～
第 43 回東北理学療法学会学術大会. 2025 年 9 月@福島
神経理学療法学のルーツおよび未来をヒューマニティ, テクノロジー, そして患者の語りなどを踏まえて解説した.
10. 大住倫弘
（シンポジウム）MirrorTherapy-VR
第 4 回先端技術・福祉用具合同フォーラム. 2025 年 9 月@WEB
幻肢痛の緩和を企図した VR デバイスについて紹介した.
11. 大住倫弘
（講演）感覚機能低下に対する理学療法
第 23 回日本神経理学療法学会学術大会. 2025 年 10 月@石川
体性感覚系の損傷によって生じる症状とメカニズムについて話題提供した.
12. 水田直道
（講演）脳卒中後の歩行能力低下における病態構造の理解と歩行リハビリテーション戦略
第 23 回日本神経理学療法学会学術大会. 2025 年 10 月@石川
脳卒中後症例の歩行能力低下における病態構造を紐解くための評価戦略について概説するとともに, 病態構造に基づく歩行リハビリテーションについて概説した.

13. 成田 雅
(教育講演) パーキンソン病の病期別(進行期)の理学療法
第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025年10月@石川
進行期パーキンソン病の理学療法について, 移動障害・呼吸障害・褥瘡・介護負担などの主要問題を整理し, 介入戦略を提示した.
14. 佐々木遼
(ランチオンセミナー) 非侵襲的な温冷刺激を用いた疼痛の可視化: サーマルグレル錯覚の活用
第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025年10月@石川
臨床で使用可能な定量的感覚検査のひとつとして, サーマルグレル錯覚を紹介しそのメカニズムや応用方法について紹介した.
15. 藤井 廉
(シンポジウム) 臨床と研究を架け橋する地方民間病院の実践モデル: 歩行障害の定量的評価から個別化アプローチまで
第23回日本神経理学療法学会学術大会. 2025年10月@石川
地方民間病院に設置した臨床研究センターにて取り組んでいる定量的評価や評価から得られた情報を基にした介入意思決定までを紹介した.
16. 蓮井成仁
(教育講演) 脳卒中リハビリテーションの革新—脳卒中後の歩行分析と理学療法—
第36回兵庫県理学療法学会学術大会. 2025年10月@兵庫
脳卒中後の歩行分析に係るフレームワークについて概説し, 臨床動画を用いながら歩行分析の評価戦略について説明した.
17. 水田直道
(研修会) 脳卒中後の歩行能力低下における病態構造の理解と歩行リハビリテーション戦略
(一社)日本神経理学療法学会主催 第10回基礎理学療法学会セミナー.
2025年11月@WEB
脳卒中後歩行障害の病態構造の理解を深めるとともに, その分析結果を日々の臨床実践にどう活かすか, 具体的な思考プロセスと介入戦略に焦点を当てて解説した.
18. 大住倫弘
(クリニカルディスカッション) 「見えない病態」を観る—疼痛リハビリテーションにおける情報の不一致と身体情緒
第25回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025年11月@大阪
身体情報の不一致によって増悪する痛みについて解説するとともに, それに伴う情動的側面の重要性を説明した.

19. 信迫悟志

(教育講演) 見えないものを観るための手段～実験的手法で明らかにする認知の構造～

第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪

実験心理学的手法で目では見えない DCD や失行の病態メカニズムについて調べた研究紹介を通じて、見えないものを観るための手段について概説した。

20. 長森由依

(クリニカルディスカッション) 「この子なりの成長」の可能性を観る～重度肢体不自由児と養育者の相互作用の Visualization～

第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪

重度肢体不自由児と養育者の相互作用の様子を行動・心理・生理データから多角的に捉え、微視的に分析し、縦断的に検討する取り組みについて話題提供した。強みを観る視点の重要性や、見えないものを観るための工夫について議論した

21. 植田耕造

(クリニカルディスカッション) 見えない恐怖感や注意は姿勢バランスをどう変えるか

第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪

転倒恐怖感や注意が姿勢バランスにどのように影響するのか、また転倒恐怖感と注意の関係性について話題提供した。

22. 井川祐樹

(クリニカルディスカッション) 「見えない病態」を観るー痛みという現象の再考ー臨床的洞察に基づく多面的評価の重要性ー

第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪

痛みが生じ、患者が表現している現象の背景にどのような病態を隠され、どのような要因が生じているのか神経学的な多面的視点をもとに臨床的洞察の重要性を説明した。

23. 南川勇二

(シンポジウム) 上肢機能回復と治療ストラテジー

第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪

中枢神経疾患患者の日常生活における上肢活動評価の紹介と、上肢機能改善に対する心理的側面や個人価値観の観点を考慮した治療方法について話題提供した。

24. 産屋敷真大
(クリニカルディスカッション) 高次脳機能障害の見えない病態を観る
第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2025 年 11 月@大阪
脳卒中後症例における身体に対して感じている感情を捉える目的や捉える方法について話題提供した.
25. 信迫悟志
(講演) 90 分で分かる神経発達症に伴う運動困難のメカニズムと介入
(公社) 兵庫県理学療法士協会阪神北支部 web 研修会. 2025 年 11 月@WEB
神経発達症児に対する介入・支援について解説した.
26. 信迫悟志
(シンポジウム) 発達性協調運動症における知覚・認知と運動の相互作用
日本基礎心理学会第 44 回大会. 2025 年 11 月@新潟
自身の DCD 研究を通じて, DCD における知覚・認知と運動の相互作用の変容について話題提供した.
27. 古賀優之
(シンポジウム) ペインリハビリテーションにおける予後予測ー現状と課題, 臨床活用の展望ー 中枢性疼痛の予後予測の現状と課題
第 1 回日本ペインリハビリテーション学会サテライトシンポジウム@京都
中枢神経疾患罹患後に生じる疼痛の特徴および予後予測について, 主に脳卒中後疼痛をモデルとして話題提供した.
28. 浦上慎司
(シンポジウム) ペインリハビリテーションにおける予後予測ー現状と課題, 臨床活用の展望ー 脳卒中後疼痛の予後予測の知見をどのように活用するか?
第 1 回日本ペインリハビリテーション学会サテライトシンポジウム@京都
痛みの性質に基づいた脳卒中後疼痛の特徴と予後について, 整理を行い, 臨床場面でどのように活用しているかについて情報提供を行った.
29. 尾川達也
(講演) 地域理学療法におけるアウトカムの評価指標の標準化
(一社) 山口県理学療法士会 定期理学療法研修会. 2025 年 12@Web
地域理学療法に特異的な評価の視点を概説した上で, 臨床現場で使用しやすい評価尺度の紹介を事例を交えて説明した.

30. 山崎雄一郎
(講演) 脊髄小脳変性症のリスク管理～転倒予防を含めた視点～
埼玉県理学療法士会 神経難病リハビリテーション推進委員会主催「初
学者向け導入研修会」.2026年12月@Web
脊髄小脳変性症者のリスク管理を目的に、病期の進行に合わせた環境設定や転倒
予防にむけた、理学療法評価や注意点について説明した。
31. 大住倫弘
(シンポジウム) 慢性疼痛の脳波ネットワーク異常とリハビリテーシ
ョン
JAPAN PAIN WEEK 2025. 2025年12月@東京
慢性疼痛に特徴的な脳波、特に Peak Alpha Frequency, Graph Theory,
Microstate を中心に説明した。
32. 大住倫弘
(シンポジウム) 義手の身体化の背景にある脳内メカニズム
JAPAN PAIN WEEK 2025. 2025年12月@東京
義手の身体化のしくみとその基盤となる脳機能について話題提供した。
33. 西 祐樹
(シンポジウム) 慢性疼痛患者の運動特性から考える運動療法の新展
開
JAPAN PAIN WEEK 2025. 2025年12月@東京
慢性疼痛患者における運動特性を概説し、個別性の高いリハビリテーションを提
示した。
34. 佐々木遼
(教育講演) 痛みを有する患者に対する物理療法
JAPAN PAIN WEEK 2025. 2025年12月@東京
理学療法においてよく使用される物理療法デバイスを中心に、病期別にその活用
方法や作用機序を概説した。
35. 森岡 周
(講演) 老年療法学と身体的自己および物語的自己の接点
第4回日本老年療学会学術集会. 2025年12月@東京
高齢者にとって「生きるとは何か」という問題に関して、自己、身体性、そして
予測符号化理論や自由エネルギー原理を用いて新しい概念を提案した。
36. 重藤隼人
(セミナー) 単一事例における効果判定の統計学的指標
第13回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会. 2026年2月@北海
道
単一事例における効果判定の統計学的指標について、MIC や Tau-U などの指標
を取り上げて解説した。

37. 大住倫弘
(シンポジウム) 幻肢痛対策
第6回 日本フットケア・足病医学会学術集会. 2026年2月@大阪
体肢切断後の幻肢痛対策についてリハビリテーションの視点から話題提供した.
38. 尾川達也
(講演) 主体性を引き出す目標設定-その人らしさを考える-
(一社) 兵庫県理学療法士会 保健福祉部研修会. 2026年2月@兵庫
高齢者の暮らしや動機に関する知見を概説しながら, 高齢者が主体的に取り組める目標の特徴や設定までのプロセスをグループワークを交えて説明した.
39. 長森由依
(講演) 重度肢体不自由児の就学を見据えたかかわりー動きと心の視点からー
石川県小児ネットワーク事業協議会石川県小児等在宅医療連携プロジェクト 令和7年度リハビリ部門研修会. 2026年3月@石川
重度肢体不自由児を対象として, 就学前後の発達課題である基本的信頼感の獲得・自律性の獲得・自主性の獲得・勤勉性の獲得に重要な養育者や支援者のかかわりについて, 話題提供した.
40. 浦上英之
(シンポジウム) パーキンソン病の歩行障害における病態の可視化と神経理学療法実践
第8回日本神経理学療法学会 SIGs 参加型フォーラム. 2026年3月@東京
パーキンソン病患者のすくみ足と加速歩行における病態を整理し, 演者が取り組んでいる歩行安定性の可視化と神経理学療法実践について紹介した.
41. 森岡 周
(特別講演) 作業療法実践の再考ーエビデンスとナラティブの融合による実践の深化ー
第36回三重県作業療法学会
作業療法の実践におけるエビデンスとナラティブの融合の必要性に関して, 近代科学・哲学の変遷を踏まえて解説した.

5. 2. 国外での招待講演

1. Shu Morioka

(講演) Beyond Restoration: Temporal Self-Reconstruction and Motor Ecology After Stroke

日仏国際共同研究 CREST-ANR NARRABODY 1st International Conference 2026年3月@フランス・ボジョレー

脳卒中後の回復過程を時間的自己の再構成として捉える枠組みを提示した.

2. Michihiro Osumi

(講演) Embodiment-Based Rehabilitation for Phantom Limb Pain

日仏国際共同研究 CREST-ANR NARRABODY 1st International Conference 2026年3月@フランス・ボジョレー

幻肢痛に対する身体化に基づくリハビリテーション研究を紹介した.

3. Shingo Mitsue

(講演) Embodiment and Narrativity in Post-Stroke Walking - A Longitudinal Qualitative Study -

日仏国際共同研究 CREST-ANR NARRABODY 1st International Conference 2026年3月@フランス・ボジョレー

脳卒中患者の歩行に関する現象学的研究について、縦断的に実施した半構造化インタビューに基づく分析結果をもとに話題提供を行った.